

スキップ

No.11

2010年9月3日

J R 東海労働組合

秋の闘いシリーズ③

社会の常識！

業務に必要な費用は会社が負担しろ！

睡眠時無呼吸症候群（SAS）の調査と対策は、平成15年に山陽新幹線の運転士が運転中に居眠り状態となり、岡山駅に到着の際、ATCブレーキにより所定停止位置の約100メートル手前で自動停止するという事象がきっかけで始まりました。

SAS対策は運行に関する安全確保のためのものです。だからこそそれは業務上のことであり、会社が全ての責任を持って対処していかなければなりません。

しかしその実態は、精密検査に掛かる費用の他は全て自己負担です。

SASと診断されれば「シーパップ（治療器具）」かマウスピースが必要となります。福社会から一部補助が出ますが、定期的に病院で受診し、「シーパップ」のレンタル料は全て自己負担です。その金額も決して低額のものではありません。

皆さん、業務上必要なのだから、その費用を会社が負担することは、社会一般からみて当然のことではないでしょうか。

他労組組合員の皆さん！

会社のSAS問題・対策に対する職場の声は！

- ①全ての検査費用は会社が負担し、勤務時間とすべき。
- ②業務上必要な治療に掛かる費用、器具は会社が負担とすべき。
- ③SAS検査における再検査の基準をJR東日本と同等のRDI30以上とすべき。
- ④SAS検査を受診できる病院を増やすべき。
- ⑤名古屋セントラル病院にSAS検査に伴う専門科を設置するべき。

最低でもこのような問題点を早急に解決する必要があると思いませんか？

なぜだ……？

業務上必要な睡眠時無呼吸症候群（SAS）の対策が、なんで自己の時間・検査で、はたまた治療費用も自己負担なのか！